



第33回 「金子みすゞ賞」 童謡詩

【応募状況】

| 応募数 (編) | 小学生 | 中学生 | 高校生・一般 | 合計 |
|---------|-----|-----|--------|-----|
| | 317 | 150 | 21 | 488 |

【審査委員】 (50音順)

| | |
|---------|-----------------------------|
| 伊 藤 豊 | 山口県小学校教育研究会国語部長 (山口市立白石小学校) |
| 小 川 二 伸 | 元下関市立長府図書館長 |
| 河 辺 哲 也 | 山口県中学校教育研究会国語部長 (周南市立菊川中学校) |
| 西 村 光 博 | 山口県教育庁義務教育課指導主事 |
| 溝 部 幸 絵 | 元防府市立大道中学校長 |

【入賞者一覧】

*最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「わたしのまえば」 井 上 那 乃 下松市立下松小学校 1年

*優 秀 山口県教育会長賞

| | | | | |
|----------|------------|---------|------------|----|
| 小学生の部 | 「大根さんのきもち」 | 森 本 紗 羽 | 光市立浅江小学校 | 5年 |
| 中学生の部 | 「なつかしい夏休み」 | 上 原 碧 | 下関市立山の田中学校 | 1年 |
| 高校生・一般の部 | 「笑って」 | 沖 聡 子 | 山口県山口市 | |

*学校賞 光市立浅江小学校 (校長 和田 明俊)

*佳 作

| | | | |
|---------------|---------|---------------------|----|
| 「サンドイッチとおむすび」 | 松 本 鼓 動 | 下松市立下松小学校 | 2年 |
| 「スイカ」 | 落 莉 亜 菜 | 柳井市立柳東小学校 | 3年 |
| 「8月のペダル」 | 藤 田 舜 也 | 下関市立吉見小学校 | 4年 |
| 「セミ」 | 三 石 唯 人 | 下関市立文洋中学校 | 1年 |
| 「烏の唄」 | 河 野 彩 花 | 山口市立大殿中学校 | 2年 |
| 「おさがり」 | 小 野 こむぎ | 萩市立むつみ中学校 | 2年 |
| 「月明かり」 | 長 島 良 太 | 山口県立周南総合支援学校 高等部 | 3年 |
| 「まめ」 | 感王寺 美智子 | 福岡県朝倉市 | |
| 「小さな宝石」 | 下 花 みどり | 広島県安芸郡 | |



第33回 「金子みすゞ賞」 童謡詩入賞作品

★最優秀 山口県教育委員会教育長賞



わたしのまえば

下松市立下松小学校 一年

井^い
上^{うえ}
那^な
乃^の

ぐらぐらしているわたしのまえば
いつまでたつてもぬけないまえば
きょうもぬけそうでぬけないまえば
ぐらぐらぐらぐらぐらぐら

ぬけたらなにになるのかなあ
わたしはおとなになるのかなあ
はやくなりたいおとなのまえば
ぐらぐらぐらぐらぐらぐら

★優 秀 山口県教育会長賞（小学生の部）

大根さんのきもち



光市立浅江小学校

五年

森^{もり}

本^{もと}

紗^さ

羽^わ

大根おろしのお味はね

大根さんが決めるんだ

気分によつて決まるんだ

やさしくおろせば ふわふわおろし

きもちをこめれば あまあまおろし

ざつにおろせば にがにがおろし

おこつておろせば からからおろし

きようはどんなお味かな

大根さんの気分はね

あなたのきもちで変わるんだ

★優 秀 山口県教育会長賞（中学生の部）

なつかしい夏休み



下関市立山の田中学校 一年

上^{うえ}原^{はら}

碧^{あお}

ぼくが生まれて十回目の夏休み
どこにも行けない夏休み

毎年車でワイワイ

みんなと行ったプール

流れるプールにおかぶか浮かび

水をかけたり

かけられたり

塩のきいたポテト

キンキンに冷えたかき氷

遊び疲れて

寝ながら帰る

あ、当たり前前に楽しかった夏休み…

あの夏休みをもう一度

★優 秀 山口県教育会長賞（高校生・一般の部）

笑って



お母さんは私に言いました
「笑って」
と言いました
だって
私が笑わないと
お空からもうすぐ
雨が降るといのです
お母さんは何回も言います
「笑って」
「笑って」
「笑って」

山口県山口市

沖^{おき}

聡^{さと}

子^こ

面白くないのに
私は笑うことができません
私はお母さんに言いました
「笑って」
お母さんにはっこり笑いました
私にもっこり笑いました
お空が晴れてきました
青いお空になりました

★学校賞



あさらぶちゃん つながりん

光市立浅江小学校 (校長 和田 明俊)

図書室の掲示



図書ボランティアによる読み聞かせ



あさエールくん



光紙芝居上演・体験



あさまもくん

浅江小学校は、浅江中学校と小中一貫教育校（あさなえ学園）の取組を行っています。あさらぶちゃん、つながりん、あさエールくん、あさまもくんは、浅江小中学校やあさなえ学園のイメージキャラクターです。

浅江小学校マスコットキャラクター
 ・あさらぶちゃん、あさまもくん、あさエールくん
 浅江中学校マスコットキャラクター
 ・つながりん
 あさなえ学園（小中一貫教育）マスコットキャラクター
 ・あさらぶちゃん、つながりん



第12回 「わたしの志」 作文

【応募状況】

| 応募数 (編) | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| | 76 | 379 | 12 | 467 |

【審査委員】 (50音順)

| | |
|--------|-----------------|
| 川上 修一 | (公財) 松風会事務局長 |
| 久保田 裕三 | 元防府市立新田小学校長 |
| 西村 佳子 | 元山口県立萩高等学校長 |
| 原文 映 | 山口県教育庁高校教育課指導主事 |
| 前田 昌平 | 山口大学教授 (特命) |

【入賞者一覧】

*最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「知性」と共に未来へ 岡本 唯花 萩市立椿東小学校 5年

*優秀 山口県教育会長賞

小学生の部 人と成りにし道 藏 貫 聡 太 萩市立明倫小学校 6年
 中学生の部 「奇跡」の瞬間と共に 小 野 こむぎ 萩市立むつみ中学校 2年
 高校生の部 私が目指す夢 森 下 凜 桜 山口県立熊毛南高等学校 2年

*優秀 松風会理事長賞

志を達成するために 中 村 実 桜 下松市立末武中学校 2年

*佳作

私の特技と経験を生かして 栗 林 沙 菜 長門市立仙崎小学校 4年
 ぼくの夢 サッカー選手 金 子 侑 希 萩市立明倫小学校 5年
 あこがれの薬剤師になるために 黒 石 真 央 萩市立明倫小学校 6年
 自分らしく人と関わるために 末 武 紗 凧 萩市立明倫小学校 6年
 わたしの志 (人を助ける人になる) 古 賀 結 菜 下関市立山の田中学校 1年
 人は変わる 上 村 兼 士 萩市立萩東中学校 2年
 未来の子供が笑顔になるために 森 重 滯 下松市立末武中学校 2年
 わたしの志 岡 崎 晴 佳 萩市立萩東中学校 3年
 夢に向かって 河 村 歩 柳井学園高等学校 3年



第12回 「わたしの志」 作文 入賞作品

★最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「知性」と共に未来へ

萩市立椿東小学校 五年

岡本唯花



「知性」―この言葉は私が七才のおたん生日にもらった、

ある本の表紙のうらのかたすみに、力強く書かれていた言葉だ。本といっしょにこの言葉をおくつてくれたのは、私のあこがれの人、私の大好きな祖母だ。さらに、その言葉の下には、こんなメッセージもつづられていた。「これからの一年がまた楽しみです。」七才の私には、「知性」がもつ言葉の意味はまだはつきりとは分からなかつたけれど、私のことを大事に思う祖母が、私の未来への応援の気持ちをこめておくつてくれた言葉であることは、はつきりと分かった。

私の祖母は、とてもやさしくて明るい。そこに居てくれると、周りをぱつと照らしてくれる太陽みたいな存在だ。でも、

何と言つても、私があこがれる祖母の一面は、かつこよくてりんとしているところ。

悩んでいる時には、私の成長にとつて一番よい方法を考え、アドバイスをくれる。祖母がおくつてくれた「知性」という言葉を辞書で調べてみたことがある。そこには、「物事を考えたり、はんだんしたりする力」と書かれていて、私ははつとした。その言葉の意味と、祖母の姿がぴつたりと重なったからだ。私も祖母みたいになりたい、その思いが大きくふくらんだ。

私は、大人になったら、小学校の先生になりたいと思つている。今までは「なりたいな」と単じゅんに思つていた気持ちだが、今は「必ずなる」という、私の大きな志へと変わった。いつも明るくてやさしい先生、一人ひとりの心や気持ちによりそえる、温かいながらもりんとした、かつこ良よさもある。そんな先生像を描いている。

小学生は素直でかわいいし明るくて元気。学校中にひびきわたるような、明るい声が周りを元気にする。大人になつた私は、きつと笑顔で子ども達と過ご

しているのだろう。

今は人として、あこがれの祖母が私のお手本となつていているが、まずは私も人間力を身に付けよう。力強さや忍耐力など自分に足りてないことはまだまだ学習できる。そして良いところは、これからの経験などを生かしてより伸ばしていけるように頑張ろう。

この夏のオリンピック、画面を通して私は沢山の声援を送つた。メダルが取れた選手、メダルが取れなかつた選手も、このオリンピックに向けて費やした時間やエネルギーは、どれほどだっただろう。今日までに、心が折れそうになつた選手もきつといるはずだ。今の一番、自分の全てを出し切つたのに負けてしまった。それでも、結果にとらわれない前向きな考え方や、気持ちの切り替えが本当の意味ですごいと思つた。私の未来も、決して楽しいことばかりではないと思う。どんな状況でも、のりこえなくてはいけない。自分の考えをきちんと整理し、知性豊かな人になれるように、志を持つて日々歩んでいきたい。

★優 秀 山口県教育会長賞（小学生の部）

人と成りにし道

萩市立明倫小学校 六年

藏 貫 聡 太



「今日よりぞ
幼心を打ち捨
てて 人と成
りにし 道を
踏めかし」

これは明倫小学校に入学して最初に
教えてもらった朗唱文ですが、来年
中学生になる今の自分の心にも響き
ます。ぼくは大人になるための道を
歩めているだろうか。甘えた心を持っ
ていないだろうか。

ぼくが考える大人とは、まず、き
ちんとあいさつができる人のことです。
あいさつは六年生になつてから特に
意識してきました。

ある日の休み時間、教室にいと、
「こんにちは。中学校の教頭ですが、
藏貫聡太君はいますか。」

と、とつぜん自分の名前を呼ばれて、
ぼくはびつくりしました。「え？何、
何？」「ぼく何かしたっけ？」「うー
ん…。」すると、教頭先生に言われた
のは、

「藏貫君は、いつもとてもいいあい
さつをしてくれるので、同じ校区
の中学校から表彰したいと思いま
す。」

という言葉でした。そして、立派なバッ
ジをいただいたのです。ぼくはまたびつ
くりしました。それから教頭先生には、
「礼儀正しいね。」

とほめてもいただきました。ぼくの
してきたあいさつが認められたこと、
礼儀正しいとほめてもらえたことは
とてもうれしかったです。そこでぼ
くはふと思いました。「礼儀」ってど
ういうことだろう。辞書で調べると、「社
会生活の中で人として守るべき決まり。
特に人に対して敬う気持ちを表す作
法。」と書いてありました。

今年、東京オリンピックが開催さ
れました。印象に残っている選手は、

柔道金メダリストの大野将平選手です。
大野選手は決勝で勝利を決めた瞬間
も大声を出して喜んだり、ガッツポー
ズをしたりしませんでした。最後に
静かに一礼をし、たたみを降りた姿
を見て、「本当にかっこいいな。」と
思いました。相手のことを考え、敬
う気持ちを持つて接する、これが礼
儀正しいということだと感じました。

ぼくも礼儀正しい大人になりたい
と思いました。そのためにこれから
自分には何ができるのだろうか考え
ました。あいさつはただ大きな声で
するのではなく、相手に対して敬意
の気持ちをこめよう。家族、先生、友達、
地域の方、ぼくのまわりにいる全
ての人たちがぼくを支えてくれてい
ることを忘れずにいよう。大切な人
たちに甘えるばかりでなく、自分で
きることを感謝の気持ちをこめてし
ていこう。

礼儀正しい、一人前の大人に成る
ための道を、ぼくは今日から歩ん
でいきます。

★優 秀 山口県教育会長賞（中学生の部）

「奇跡」の瞬間を共に

萩市立むつみ中学校 二年

小野 ひとむぎ



生命の誕生は、奇跡である。誰が教えたわけでもないが、誰もが知っていることである。

しかし、この言葉を知っている多くの人が、どのくらい「奇跡」なのかは知らない。二つの命が生まれる確率は、一億円の宝くじが百万回連続して当たることに匹敵する。」とは、遺伝子工学の第一人者、村上和雄さんの言葉だ。この言葉から、とんでもなく「奇跡」であることが伝わってくる。私を含めて、誰もが「奇跡」の一人なのである。だから、「奇跡」のうちに入らなかった命の分も、生まれてきた幸せを噛み締めなければならぬ。それが、生まれてきた私たちの責務である。そうして生まれた私たちが、人生で最初にお世話になるのが助産師だ。私は、母親、父親の次に感謝しなければならぬ重要人物だと思っている。

助産師といえは、分娩介助というイメージをもっている人は多いのではないだろうか。だが実は、それ以外にも、生命の誕生においての大きな役割を果たしているのである。例えば、母親・父親への指導だ。「生活指導」や「健康指導」などを行い、不安を取り除く。他にも、育児に関するアドバイスをするなど、

まるで教師のような仕事をしている。どれだけの、生命の誕生が大変であり、大切なのかということが分かる。

また、母親が預かっている命は一つに對し、助産師が預かっている命は二つある。つまり、出産時に戦っているのは母親だけではない。母親を支える助産師も戦っているのだ。それが、私が感謝しなければならぬと思った理由である。

私には、助産師になるという「志」がある。これを「志」にしたのには、二つのきっかけがある。

一つは、生命の誕生という奇跡の瞬間に興味をもったからだ。私には、二人の弟がいる。弟が生まれた時、私は幼いながらも感動でいっぱいになったことを鮮明に覚えている。

「おぎやー、おぎやー。」と大きくて高い声を出して泣いたり、寝たり、笑ったり……。生きていくのだと実感して、とても嬉しかった。思えば、その時から助産師という仕事に憧れを抱いていた。もう一つは、遠く離れた場所に住んでいる助産師である叔母の存在だ。叔母のかけてくれる言葉は、とても優しい。まるで、マザー・テレサのようだ。こんなふうに話しかけられたら妊婦さんも嬉しいだろうと、いつも思う。私にも、こんな人になりたい。」と思ったのは、叔母が初めてだ。そこから、助産師になることが、「私の志」となった。

では、「志」を叶えるためにすべきことは何だろうか。それは、自分自身を見つめ直すことである。今の私には、責任感が足りない。誘惑に負けて、「まあ、いいか。」と投げ出してしまいうことがよくある。もし、二つの命を預かっている場合で、その命を投げ出したらどうなるのだろうか。考えるだけでも恐ろしい。さらに、私に足りないことは、

自己主張の強さだ。強いことが良いとは限らないが、多少の強さは必要だ。自己主張ができなければ、周りに流されてしまう一方で、いざという場面で行動できなくなるからだ。

それに加えてできることが、もう一つある。それは、長所を最大限に伸ばすことだ。短所ばかりを探すと、長所が見えなくなってしまう。私の長所は、継続力があるところだと思ふ。助産師には、楽しい仕事もあれば、辛い仕事もあるはずだ。だから、今もっている継続力を活かしていきたい。

現在、新型コロナウイルスにより、出産や育児に大きな影響が出ている。妊娠中は重症化のリスクが高かったり、家族が出産に立ち会えなかったりと、大変な状況なのだ。そんな状況下でも、助産師は、出張訪問で母親たちを支え、共に悩み、考え、寄り添っているのだ。その姿をニュースで見た時、今までよりもつと助産師になりたいという願いが強くなった。

私の助産師になるという「志」は、頼られる存在になるという「志」でもあったのだ。

助産師になるためには、看護師資格と助産師資格の二つを取得しなければならぬ。二倍の努力が必要になる。けれど、助産師の魅力に気づいた今、頼られる存在になると決意した今なら、どんな努力も頑張ら続けられる気がする。簡単なことではないと理解しているが、弱い自分を捨て、強い自分になるために頑張っていきたい。

私は、誰からも頼られる、そんな助産師になることを「志」として、明日も、今日の自分を越えていく。これから出会うたくさんの人たちに感謝しながら、「奇跡」の瞬間をめざして。

★優 秀 山口県教育会長賞（高校生の部）

私が目指す夢

山口県立熊毛南高等学校 二年

森 もり
下 した
凜 り
桜 お



「理学療法士になる。」そう心に決めたのは中学三年生の頃だった。それ以前はなんとなく理学療法士になろうかなと考えていたが、強く抱いたのはこの頃だった。

理学療法士の仕事といえば、みんながまず思いつく仕事内容は、けがや病気などで体の機能が低下した部分をもとの状態まで回復させるリハビリであると思う。これは運動療法というものである。しかし、理学療法士が行うことはこれだけではない。温熱療法や電気刺激で患者さんを治療する物理療法や、パフォーマンスを向上させるための指導を行うこともある。理学療法士は患者さんの体の状態を知るためにコミュニケーションは欠かせないが、私は初対面の人とコミュニケーションをとることが苦手だから、日頃からいろいろな人とコミュニケーションをとることに信頼され、愛される理学療法士になれるようにしたい。

初めて理学療法士の仕事に興味をもったのは中学二年生の頃だった。妹が体に障害があり、リハビリに通い始めた

時、母から、将来、理学療法士になって（妹）のリハビリをやってみるのはどうかと聞かれた。私は妹のように身体に障害がある人に寄り添うことができたり、助けることができたりするような仕事に就きたいと考えていたので、母に理学療法士の仕事を薦められた時、なにか自分の中にはとするとするものがあつた。しかし、その時は理学療法士の仕事には興味をもつたが、どういふ仕事かどういふものなのかはつきりとは知らなかつた。なんとなくみようとかなという気持ちだけがあつた。

本気で理学療法士を目指し始めたのは、中学三年生の頃だった。きっかけは妹の障害が悪化した頃だった。家にいる時、生活しづらく見える場面が増えてきた。うまくいかないことも増え、悔しい顔や困った顔をよく見ることがなつた。私はなにか助けになることをしたいと考えた。妹はリハビリでやつたトレーニングを家で見せてくれるから、一緒にやつてみたいとした。理学療法士の方々は患者さん一人一人に合わせたトレーニングを取り入れるのですごいと思つた。相手のことを観察して、現状把握を行い、患者さんに一番適したリハビリのメニューを提案し、もとの状態に回復できるように一緒に頑張る。私もそんな雰囲気を作ることができると理学療法士になりたい。そして、妹のように日常生活で困つていふ人を一人でも多く助け、一つでも多くの笑顔がみたい。

私が理学療法士を目指したきっかけはもう一つある。それは高校一年生の頃、足首に怪我を負つた時だ。重度のけがだったから約三週間ギプスを巻いて、松葉杖を使つていた。けがが治りギプスをはずすと、筋肉は落ち立つこともやつとだつ

た。もちろん歩くことも困難で、運動することはできなかった。私はサッカー部に所属しているから、足が絶対必要で、このままの筋肉の状態だとまずいと思つた。私のリハビリを担当してくださつた理学療法士の方は、私の足の筋肉が一日でも早く回復するために私に合つたリハビリを提案してくださつた。病院でできることだけでなく、家で自分で行うことも教えてくださった。教わつたことを信じてやつたからおかげでギプスをはずして二週間であつた。私はこの時、理学療法士の仕事を生で感じ、本当にすごいなと感動した。再び運動ができるようになった喜びは本当に大きかつた。理学療法士の方は私の体に負担がかからないように、ゆつくりといぬいにリハビリを行つてくださった。一歩ずつ自分の足で歩けることがあつてもうれしかった。自分が経験したからこそ、分かることがたくさんあるから、この経験を活かしてスポーツ選手のトレーナーか、身体障害者の機能を回復するためにいう病院や施設で働きたいと考えている。そしてたくさん患者さんに最適なりハビリ方法を提案し、もとの生活を送ることができるようになつてあげたい。また、リハビリを頑張つて回復した患者さんの笑顔がたくさん見ることができるようになるから、理学療法士はこれからの社会で必要になつてくると言われているから、社会に貢献できるように努力したい。そして将来、立派な理学療法士になれるように勉強することやコミュニケーションをとることを大事にし、理学療法士にふさわしい人材になれるように頑張つていこうと心に誓つた。

★優 秀 松風会理事長賞

志を達成するために

下松市立末武中学校 二年

中 村 実 桜



将来は獣医師になり、動物にも温かい心が持てる人を増やすこと。これが私の今の志です。獣医

師の仕事は主に、動物の怪我や病気の治療をすることですが、心を込めて治療することによって、もつと動物を大切にしようと思ってもらうことができるのではないかと考えたからです。

そもそも私が獣医師になりたいと思いはじめた頃には、いくつか理由がありました。その中で、特に私に影響を与えた出来事が二つあります。一つ目は、小学校の頃に飼っていた犬が車にひかれて死んでしまったことです。その子は私が生まれる前から両親が飼っていたので、ショックがとても大きく、今でもよく思い出すことがあります。けれど、そのような経験をしたからこそ命の大切さを知ることができました。一つ目は、中学校の総合の学習です。今年には職場体験のDVDをクラスの皆で見ました。たまたま私達のクラスは獣医師と関わりの多い動物看護師の仕事についてのDVDで、仕事をするの大変さや魅力を知ることができました。主にこの二つのことから、獣医師という仕事そ

のものについてや動物が人間に教えてくれるものの重大さを学び、獣医師になりたいと思うようになりました。

私の志を実現するための第一段階として、まずは獣医師にならなくてはなりません。そのために今から私が努力していかなければいけないことはたくさんあります。当たり前のことなのかもしれないけれど、まずは勉強です。獣医師はさまざまな分野での知識がなければなることができないし、治療をしたりするための技術も絶対に必要なことから、学校で学んでいることはもちろんですが、それ以外にも必要な知識を少しずつ身に付けていきたいです。専門的なことを学べるようになったときに、基本的なことを復習しなければいけないという状態にならないように、普段から未来をイメージすることも大切にしたいと思います。

勉強の他にも、強いメンタルを持てるようになることです。獣医師の仕事は、時に死と向き合わなければならぬ場合があります。調べてみると、そのような時に、ペットや飼い主さんを精神的にサポートすることを「グリーフケア」と言うそうです。

グリーフとは、かけがえのない大切な存在を失ったときの、誰にでも起きる自然な心と身体の反応を意味します。心理学用語で、グリーフを直訳すると「悲嘆」となるそうです。しかし、実際は、悲と嘆の二文字で表わせるような単純なものではなく、不安、戸惑い、ショック、後悔、怒り、自責などさまざまなものです。グリーフにはペットの生前に起こるものと、死後に起こるものがあります。生前に起こるグリーフは、日常生活の中でペットの元気がない、ご飯を食べな

い、遊ばない、吐く、ぐったりしているなどの状態を見ていると起こります。飼い主さんの心には不安や戸惑いが生まれてしまい、落ち着きを失います。動物病院に来院する前から、最悪な事だけしか浮かばなくなってしまうこともあるでしょう。飼い主さんにグリーフが起こってしまった時、実はペットにも戸惑いやさみしさが生まれています。動物には病気や治療のことは分かりません。けれど、だからこそ飼い主さんの不安や悲しみに暮れた表情に戸惑ってしまうのではないのでしょうか。

このような状態で動物病院に来る飼い主さんの心をしっかりと受けとめ、ペットのことも飼い主のことも思いやっけて心を軽くしてあげられるような獣医師になりたいです。

私の目指す理想に近づくために、今の生活の中でも意識できることがあると思います。学校生活では、もつと周りの人に対する思いやりの気持ち、人を大切にすることをやるようになります。振り返ってみると、今まではあまり他の人を尊重できていなかったように感じました。そのため、相手の心を理解しようとする気持ちをいつも忘れないようにしていきたいです。そのようにしていたら、言葉を話すことができない動物が相手になったときにも自然と気持ちを汲み取ってあげることができるようになると思います。

今回明確にすることができた自分の志に向かって、達成するためにどのような努力をしなければいけないかを日々己に問うようにしていきます。そして、志の達成に限界を決めずに頑張りたいです。



「金子みすゞ賞」童謡詩 「わたしの志」作文入賞者 表彰式・受賞風景

教育県民大会（下関大会）が紙上報告になったことに伴い、10月30日(土)に教育会館で「金子みすゞ賞」童謡詩・「わたしの志」作文入賞者の表彰式を実施しました。



「金子みすゞ賞」童謡詩 最優秀
井上 那乃さん



「わたしの志」作文 最優秀
岡本 唯花さん



入賞式後の風景



会長 挨拶